

小学校教職課程

| 履修年次 | | 具体的な科目名称 | | | | 到達目標 |
|---------|----|---------------|----------|--------------|------------------|--|
| | | 教職に関する科目 | 教科に関する科目 | 教科又は教職に関する科目 | 施行規則第66条の6に関する科目 | |
| 年次 | 時期 | | | | | |
| 1 年次 | 前期 | 教職入門 | 音楽Ⅰ | | 情報処理演習Ⅰ | 教員の資質の根幹にかかわる教職の意義及び教員の役割を「教職入門」において学ぶとともに、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について「学習・発達論」で理解することで、教育課程の編成の意義や編成の方法について「カリキュラム論」において具体的に修得する。また、教科に関する科目を履修することで、小学校における学習内容を包括的に学習し、小学校教員としての基盤を養う。2年間で実践力を身につけるため、入学後すぐに教育実習の事前指導を開始する。事前指導では、15回授業の中で社会人のマナーを確認するとともに、教育・保育現場の見学を行うなど、専門教育への意識づけを行う。 |
| | | 学習・発達論 | 造形美術 | | 英語Ⅰ・フランス語Ⅰ | |
| | | カリキュラム論 | 体育 | | | |
| | | 教育実習 | 国語 | | | |
| | | | 算数 | | | |
| | | | 生活 | | | |
| | 後期 | 音楽科教育法 | 音楽Ⅱ | | 情報処理演習Ⅱ | 前期に履修した教科に関する科目における学習内容を基礎に、教科の指導法を学習し、教材の研究、学習指導案の作成、板書計画の作成などの授業設計力や導入、発問などの授業実践力を身につける。また、近年、さらなる必要性が増す道徳心を養う「道徳の指導法」を通して、幼児、児童及び生徒への指導方法を身に付ける。また、教育実習に向けての事前学習として、幼小連携及び幼少一貫研究校における見学を実施し、カリキュラム構築に関する実践的知識を深める。 |
| | | 図工科教育法 | | | | |
| | | 体育教科法 | | | 英語Ⅱ・フランス語Ⅱ | |
| | | 国語科教育法 | | | | |
| | | 算数科教育法 | | | | |
| | | 生活科教育法 | | | | |
| | | 道徳の指導法 | | | | |
| | | 教育実習 | | | | |
| 2 年次 | 前期 | 教育原理 | 家庭 | | 健康・スポーツ実習 | 昨今の体験的な学習経験が少ない学生の増加に配慮し、前年度の実践的な学習を経た2年次前期に、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を「教育原理」において学ぶ。自身の体験に理論的な意義付けを行うことを目標とする。前年度に引き続き、教科に関する科目、教科指導法の学習を積み重ねるとともに、1回目の教育実習を通じて、それまでの学習成果に基づいた実践を行い、教育現場における現状把握と自身の課題解決能力の向上を促す。 |
| | | 特別活動の指導法 | 理科 | | 日本の憲法 | |
| | | 理科教育法 | 社会 | | 情報処理演習Ⅲ | |
| | | 社会科教育法 | | | | |
| | | 家庭科教育法 | | | | |
| | | 生徒・進路指導の理論と方法 | | | | |
| | | 教育実習 | | | | |
| | 後期 | 教育方法の理論と実践 | | | 健康・スポーツ論 | クラス運営にかかわる「特別活動の指導法」を学習し、児童及び生徒の主体的な活動を指導できる力を身に付ける。教育実習では、授業設計力と実践力の両方をバランスよく身につけ、自身の学習成果を振り返ると同時に、「教育方法の理論と実践」において教育の方法及び技術の向上改善を行う。また、児童、生徒の学習や生活等を総合的に見極め、適切な支援を行うための「教育相談の理論及び方法」を修得する。卒後の教育現場を目前とした最終学期として、自身の教員としての資質や実践力を評価する「教職実践演習」では、自身の向上のための学び続ける姿勢や態度、卒後の教育現場においても課題解決や教員としての資質向上への研鑽をし続ける力を身に付ける。 |
| | | 教育相談の理論と方法 | | | 情報処理演習Ⅳ | |
| | | 教職実践演習(幼・小) | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |